

平成28年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立有鹿小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○「読む」能力が優れています。

情報を伝達する機能をもつ文章や図表などの資料から、必要な情報を的確に取り出し、それらと関係づけて読むことができます。

○「話す・聞く」能力が優れています。

目的や意図に応じて、収集した情報を関係づけながら話し合うことができます。

○「文字の大きさや配列」を理解しています。

書写では、文字の点画のつながり、適切な大きさを理解し、書き方の判断ができています。

《努力を要する所》

○「書く」能力がもう少しです。

目的や意図に応じた文章を書くために、取材した事柄を整理することに課題が見られます。

○「言語についての知識・理解」がもう少しです。

漢字(親しい、相談)を正しく書くことや、身近な単語をローマ字で書くことに課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○「読む」能力が優れています。

目的に応じて、複数の本や文章などを比べ、自分の考え方を明確にしながらか読むことができます。

○「話す・聞く」能力が概ね優れています。

目的に応じて、質問したいことを整理したり、適切な質問を考えたりすることが、比較的よくできています。

《努力を要する所》

○「書く」能力がもう少しです。

自分の考えを伝えるために、図表やグラフなどを用いて、事実や結果などの根拠を示しながら書くことに課題が見られます。

話し手の意図を捉えながら聞き取り、それを基に相手に質問することを考えて書くことに課題が見られます。

これまでの取組から

- 漢字の確実な習得をめざすとともに、漢字を日常的に文や文章の中で適切に使うことができるよう、充実を図ってきました。
- 内容が伝わる文章を書くことができるよう、読書活動を充実させて語彙を増やしたり、いろいろな見方や考え方で表現したりする指導の充実を図ってきました。

今後の具体的な取組について

- 漢字の確実な習得をめざすために、様々な場面で実際に使うことで確実に習得することができるよう、今後も計画的に指導していきます。
- 目的に応じて本や文章を複数選び、比べて読む活動を取り入れます。学習内容に関する図書を紹介したり、学級に置いてすぐ読めるようにしたりする等、読書環境の充実を図ります。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○「数と計算の領域の数の大小」について、よく理解できています。

数の大小関係とその表し方についてよく理解し、不等号を正しく使うことができます。

○「図形の領域における技能」に優れています。

図形の性質について実感的に理解しています。特に、具体物を並べて図形を作る場面では、「図形の構成要素に着目して、正しく図形を構成すること」ができています。

《努力を要する所》

○「数量や図形についての知識・理解」がもう少しです。

「直方体における面と面の位置関係を理解すること」、「割合が百分率された場面で、基準値、比較量、割合の関係を捉えること」に課題が見られます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○「量と測定の領域の数学的な考え方」に優れています。

示された条件を基に、ほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることがよくできています。

○「目的に応じて図形の性質を活用すること」に優れています。

正方形と円の性質をよく理解しており、「正方形に内接する円の半径」の書き方についても理解できています。

《努力を要する所》

○「考え方を解釈し、説明する力」がもう少しです。

「示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明をすること」や「式の中の数値の意味を解釈すること」に課題が見られます。

これまでの取組から

- 計算の技能は正確に解き進めることができるよう継続的な指導をし、確実な定着を図ることをめざしてきました。
- 根拠となる考えを基に、過不足なく説明することができるように、前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりする学習活動の充実を図ってきました。

今後の具体的な取組について

- 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、目的に応じて計算の結果の見積もりや確かめをする場を適宜位置づけ、計算の結果や方法について振り返らせるよう、きめ細かい指導を継続していきます。
- 数学的に表現された考えを正しく解釈できるように、式の意味を説明し合ったり、図形を考察し、結果を説明し合ったりする学習活動の充実を図ります。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「読書は好きですか」という問いに対して、「好き」と答えた児童は約80%で、全国より高い結果となっています。
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日30分以上、読書をする」と答えた児童は約45%で、全国より高いです。

《課題と思われる所》

- 「学級会などの話し合い活動で、自分と異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめることができていない」と答えた児童が約50%で、全国より約9ポイント高いです。
- 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった経験がある」児童は約82%で、全国よりやや低いです。

生活について

《よかった所》

- 朝食を毎日食べている児童は89%で、全国をやや上回っています。
- 「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」と感じている児童は98%で、全国よりも高いです。達成感、自信や新たな意欲につながります。

《課題と思われる所》

- 「平日のテレビ視聴時間が2時間以上」の児童は約65%で、全国より高いです。また、「平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール等を1時間以上している」児童は、約31%で全国より10ポイント以上高く、生活リズムの見直しが必要です。
- 「地域社会で起こっている問題や出来事に関心を持っている」と答えた児童は、約60%で全国よりも10ポイント以上低く、40%の児童は社会にあまり関心をもっていないことがうかがえます。

これまでの取組から

- 学年×10分を目安に、家庭学習を毎日の習慣として行っている児童が増えてきています。家庭の協力をいただきながら、指導してきた成果です。
- 継続して行っている朝読書の取組や、学校図書館支援員を活用した調べ学習を通して、読書活動が充実してきています。

今後の具体的な取組について

- 話し合い活動の充実に向け、各教科における言語活動や学級活動での話し合いの機会を増やし、各学年で系統立てて指導していきます。
- 基本的な生活習慣の定着に向け、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、今後も学校と家庭が連携・協力しながら指導していきます。



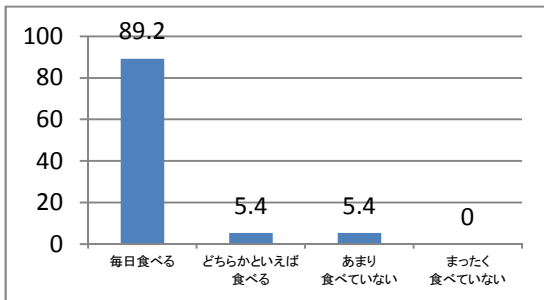
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 「早寝・早起き・朝ごはん」を続けましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」等、規則正しい生活習慣は、学習意欲・体力・気力の向上につながります。

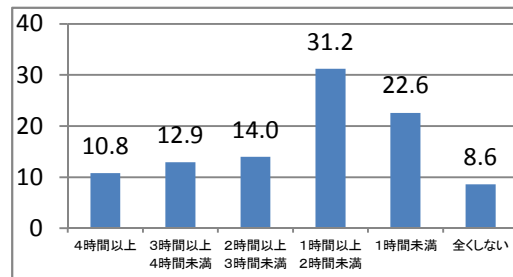
朝食を毎日食べていますか。



2 時間の使い方を見直し、ルールを決めましょう。

テレビやゲームに費やす時間、携帯・スマートフォンなどの使い方を見直し、家庭でルールを決めましょう。

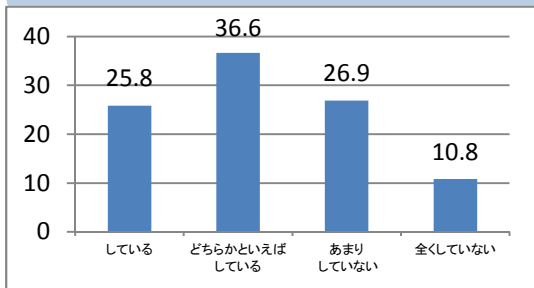
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



3 計画的に家庭学習に取り組みましょう。

学年×10分を目安として、家庭学習に取り組む習慣化しましょう。

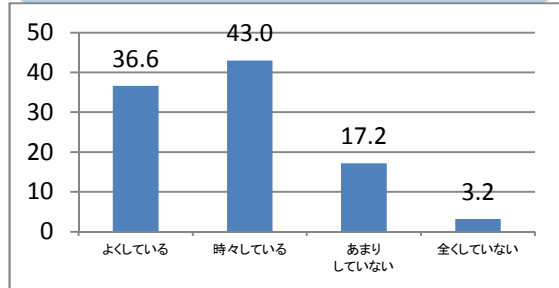
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



4 家のお手伝いをしましょう。

家庭でのお手伝いは、自立への第一歩です。小さなことから仕事を任せてみましょう。

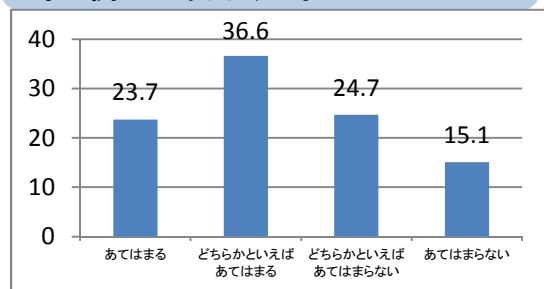
家の手伝いをしていますか。



5 地域や社会の出来事に関心をもちましょう。

世の中の出来事に関心をもつことで視野が広がります。新聞やテレビ等で、積極的に情報を取り入れましょう。

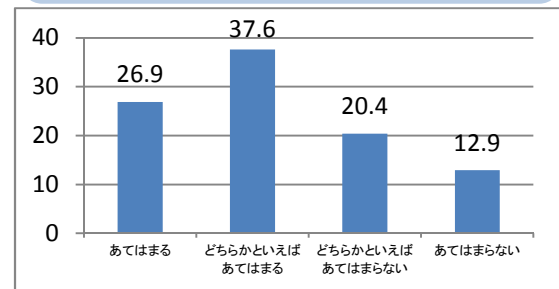
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



6 地域の行事に積極的に参加しましょう。

子どもたちは、地域の中で育ちます。地域のいろいろな行事に参加し、交流の輪を広げていきましょう。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。





平成28年11月